



室町時代の多彩な茶道具が出土

西万木遺跡の発掘調査

西万木遺跡は、安曇川町西万木に所在し、平成20年度に大型店舗建設に伴い発掘調査を実施しました。調査の結果、中世後期の在地領主層の屋敷地が発見されました。屋敷地は堀（区画溝）と土塁をめぐらせるもので、その規模は半町（54・5メートル）四方を測ります。出土した土器類から屋敷の機能していた時期は15世紀後半から16世紀前半頃を中心としたものでした。

出土した遺物には当時「唐物」と呼ばれ珍重された中国明代の双耳長頸瓶（銅製の花瓶）や、高麗茶碗（朝鮮王朝陶磁）などの舶載品をはじめ、茶入・茶碗・天目茶碗・茶臼・風炉・香炉など多数の喫茶関連遺物が出土しました。銅製花瓶は遺跡からの出土事例がほとんどない珍しい遺物で、屋敷において仏具もしくは書院等の座敷飾として用いられたものと

考えられます。

高麗茶碗は16世紀代の茶会記（茶湯日記）に頻繁に登場する器ですが、県内では小谷城や安土城下町遺跡など守護クラスの城郭や城下町など遺跡でしか出土していない珍しい遺物です。このような出土品から西万木遺跡の屋敷の主は、当時京の都で流行していた、喫茶の趣味をいち早く取り入れ、当時の室町文化の粋を身につけた人物であったと考えられます。（文化財課）



西万木遺跡出土「双耳長頸瓶」

編集者のつぶやき

▼今号からこのコーナーを担当することになりました広報担当Sです。これからよろしくお願いします。

▼4月から新年度がはじまりました。新しい環境へ変わられた方もたくさんおられたと思います。新生活に慣れましたでしょうか。

▼今号の表紙は、4月5日（日）に高島警察署で行われた交通安全運動の出発式での1コマです。かわいいちびっこ警察官たちの元気いっぱいの太鼓演奏に元気をわけてもらいました。園児たちの交通安全の呼びかけに応えるためにも、これからも十分に注意して車を運転しようと思います。

（広報担当S）